

# 百人一首をよむ 黄

短歌にはいろんな修辞法が使われています。歌の修辞法や歌や内容がわかると、もっともっと歌を覚えやすくなります。ちょっとずつ覚えて行きましょう。

## 掛けことば

10 これやこの行くも帰るも別れては しるもしらぬも **あふ坂の関** 蝉丸 ( ) ( )

【歌意】これがまあ、東国へ行く人も都へ帰つてくる人も、別れでは再び会い、互いに知っている人も、知らない人も会うという逢坂の関なのか。

逢坂の関……「逢坂山」のふもとに置かれた関所。京都から東国への出口に当たる要所で、三関の一つ。

96 花さそふあらしの庭の雪ならで

( ) **ふりゆくものはわが身なりけり**

入道前太政大臣

【歌意】桜の花をさそうように散らす、嵐吹く庭の、

その花吹雪ではなくて、本当に古りゆくものは私自身であるよ。



